

令和6年度 小・中学校教育課程研究協議会に係る各部会の改善の重点

部会名

中学校 社会科

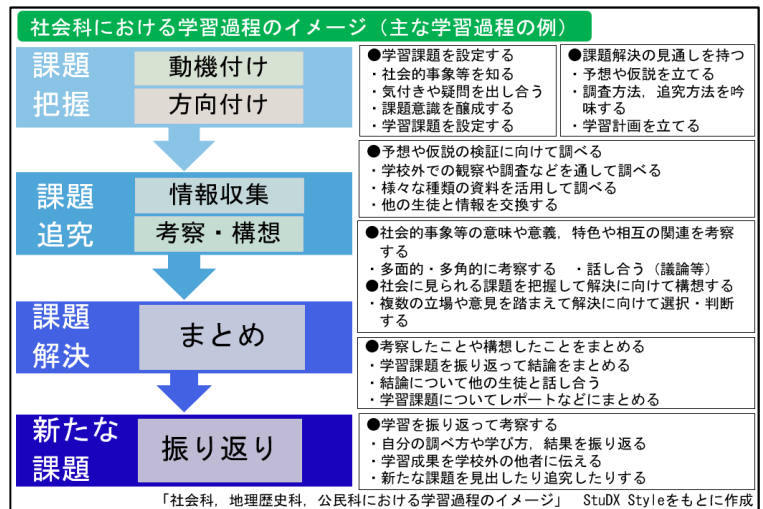
改善の重点

- ① 育成を目指す資質・能力を明確にするとともに、単元など内容や時間のまとまりを見通して学習課題を設定し、課題を追究したり解決したりする活動を重視した単元指導計画を作成すること。
- ② 単元及び各時間の評価規準を設定するとともに、評価の場面や方法を工夫して生徒の学習状況を的確に把握し、授業改善や資質・能力の育成につなげること。

1 設定理由

社会科の学習では、主体的・対話的で深い学びの実現や、主権者として持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養の観点から、社会的な見方・考え方を働かせ、単元など内容や時間のまとまりを見通して学習課題を設定し、課題を追究したり解決したりする活動の一層の充実が求められている。そのためには、生徒が社会的事象から学習課題を見だし、解決の見通しをもって他者と協働的に追究し、追究結果をまとめ、自分の学びを振り返ったり新たな課題を見いだしたりする学習過程（下記イメージを参照）を工夫することが大切である。その際、社会的事象等について調べまとめる活動等において、1人1台端末を活用することが効果的である。

また、育成を目指す資質・能力を授業者が明確にし、単元及び各時間の評価規準を生徒の具体的な姿を想定して設定することが不可欠である。そして、学習活動の様子や生徒の記述など評価の場面や方法を工夫し、「身に付けさせたい力が付いているかどうか」という学習状況を的確に捉え、授業改善や資質・能力の育成につなげることが重要である。



2 研究を進めるに当たって

(1) 実践に当たっては、以下の点に留意すること。

- ① 「社会科における学習過程のイメージ」を参考に、課題を追究したり解決したりする活動を重視した単元を構想し、単元指導計画に単元を見通した学習課題と、その学習課題に対するまとめを示すこと。
- ② 「おおむね満足できる状況」(B)と判断する生徒の具体的な姿を想定した評価規準を設定すること。また、全ての生徒を「おおむね満足できる状況」(B)まで到達させるために、生徒の学習活動の様子や記述など評価の場面や方法を工夫するとともに、「努力を要する状況」(C)の生徒への手立てを想定すること。

(2) 参考とすべき資料

- ① 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）
- ② StuDX Style（文部科学省）
- ③ 早わかり！単元計画の作成手順 中学校社会（令和2年2月 大分県教育委員会）